

8-4-24 改定道路橋示方書連絡WG

1. 設置目的と組織

(1) 改定道路橋示方書連絡 WG 設置目的

国土交通省は道路橋示方書の改定作業を行ない、平成 29 年 7 月に通達、同 11 月に道路橋示方書・同解説が発刊された。

建設コンサルタンツ協会の会員が速やかに改定道路橋示方書の内容を理解し、調査・設計業務に反映させるためには、改定道路橋示方書の速やかな普及が望まれる。

このため、早期に改定道路橋示方書の改定のポイントと内容を周知すると共に、勉強会・講習会等を開催して会員の理解を深めることを目的として、本 WG が設置された。

本 WG は組織改編により、技術部会交通基盤委員会の下で、改定道路橋示方書連絡 WG として位置付けられた。設置目的と組織の構成は、従前と変わらない。

(2) 組織

委員長、副委員長は、道路協会道路橋示方書橋梁委員会委員または傘下の小委員会の委員。委員は、既存の委員会（本部統括技術委員会、支部技術委員会、道路橋技術相談窓口対応 WG 代表、公益活動 WG、道路構造物専門委員会、設計ソフトウェア連絡 WG）からも選出し、組織横断的な構成となっている。事務局：インフラ研（現道路橋技術相談窓口事務局）（委員 19 名、事務局除く）

2. 活動内容

令和 5 年度の改定道路橋示方書連絡 WG は、以下の 4 つのテーマについて、検討を行った。

(1) 設計・計画便覧作成について

過年度、改定道示 WG の自主活動として、改定道路橋示方書改定内容を反映した照査マニュアルを作成した。照査に先立ち設計成果作成段階からこのマニュアルに示される照査項目を満たす成果作成のためには、何らかの参考図書が必要となる。そのため設計計画便覧の作成が日本道路協会橋梁委員会から求められ作成に取りかかっている。

従前は、国総研と建コン協の 2 者で執筆作業を行っていたが、本年度は組織的に対応することを

依頼し、国総研・土研、橋建・PC 建協・日建連・NEXCO・建コン協を加え新たな組織を構築した。

(2) 建コン協代表示方書委員の選出

令和 6 年度末に示方書が改定される予定である。道路協会橋梁委員会の構成が大きく変更されたことに伴い、建コン協代表各委員の所属確認と新規の追加募集を行った。新たな組織により令和 5 年度から活動が開始され、現在活動中である。

(3) 道路橋の設計・施工に関する Web 講習会対応

道路協会より「道路示方書講習会資料集」が発刊されることに伴い、道路協会と共催で講習会を開催することが道路協会から提案された。建コン協では、当 WG と公益活動 WG が共同して講習を担当することとした。講習内容は、「平成 29 年道路橋示方書に基づく道路橋の設計計算例」に関する講習会で使用した PPT を基本に、その後明らかにされた留意点について説明予定することとした。本説明資料は、音声自動変換機能を活用した。講習はオンデマンド形式で行われ、令和 5 年 11 月 1 日～令和 6 年 1 月 31 日まで道路協会ホームページにて公開された。

(4) 意見照会対応

道路協会橋梁委員会で審議される資料に対する意見照会を行った。令和 5 年度の主たる意見照会内容は以下の通りであり、WG 委員からの意見を集約して、国総研に提出した。

- ・定期点検結果記録要領（案）（道路橋）
- ・定期点検計画策定の手引き
- ・基礎データ収集要領（道路橋）
- ・床版防水便覧

(5) 道路協会からの検討・調査・アンケート対応

- ・疲労照査不要条件（表 8.2.1 の適用事例数）の調査依頼への対応
- ・橋の機能及び耐荷機構の系統的分解に基づく方法論に関する検討
- ・新たに導入される限界状態 2 の具体について

3. 次年度活動予定

新たな示方書改定の動向把握および対応、計画便覧作成に向け取り組んでいく。

（改定道路橋示方書連絡WG WG 長 鈴木 泰之）